
変な能力。

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変な能力。

【Nコード】

N0362Z

【作者名】

夢幻

【あらすじ】

とあるところにある学校に通う普通の二人の少年がいた。だが、ある日から、一人がある能力を手に入れた…。

どんどん、長くしていける小説です。これから、さらに長くなるかもしれません。

（前書き）

コメディ要素は少ないです。
ファンタジー要素も少ないです。

「なあ、雪春。^{ゆきはる}」

「なんだ、貞家。^{さたいえ}」

「突然だが、俺は『ダメージを受けるとランダムで能力が発動!』
と言うわけのわからない能力を手に入れた。」

「その能力意味なくね?ここ、『異世界に飛ばされた、普通の人間。』
とか、『悪魔に狙われた人間』とか、そんな設定は、無い普通の
学生だぞ。」

「設定つて言うな。とりあえず、何故か、もらったんだ。」

「誰だよ?こんな何の設定もない世界で、能力くれたやつは。」

「だから、設定つて言うなつて。とりあえず、闘おうぜ。」

「闘うのは、良いけど、なにをしてお前は、その能力を手にいれた
んだ?」「俺のおじいちゃんが、誕生日に何が欲しいって聞かれた
から、『普通の人とは、違うなにか』つて言ったら、もらった。」

「お前のおじいちゃんの何者なんだ…?」

「陰陽師。」

「陰陽師は、そんな訳の分からない能力を渡すものなのか。」

「まあ違っただろうが、くれたんだ。あんまり気にするな。」

「んゝ、なんか納得いかないが、まあいいや。で、俺は何をしたら
いいんだ?」

「ちよつと待つてろよ、俺は『自分の体を殴つて、別空間を作り出
す能力。』を発動するから、ちよつと待つてくれ。」

ドカッ

「よし、できた、もういいから、かかってこい。」

「行くぞ、そらっ!」

ドカッ

「よっしゃあああ!!!能力発動!」殴ってきた、相手の名字を斉
藤に変える!」つてなんじゃこりやあああ!!!」

「え？何？どういうこと！？」

「えーと、お前の名字が『長良美』^{ながらみ}から『斉藤』^{さいとう}に変わりました。」

「なにその、意味の分からない能力は…。この闘いが終われば、戻るんだよな。」

「多分な。戻らなかったら、区役所に行つて改名すればいい話だから。」

「それは、とてもめんどくさい事だと思うんだが…。」

「気にしてたらめんどくさいから、そのことは後にしろ、さあ、もう一度こい！もしかしたら、名字が戻るかも知らないしさ。」

「はあ、めんどくせえ。まあ、いくぞ！」

ドカッ

「よっしゃああ！能力発動！『自分の名字を空巳^{からみがさき}牙佐紀に変更！』
つて俺も変わったよ…。」

「お前、すごい名前になったな。変わる前の名前の夜飼^{やしよつ}寄つてのも
すごいけど、変わりすぎだ。」

「そろそろ次の能力を発動して終わることを願うわ。」

「そうだな、早くやってくれ。」

「いくぞっ！」

ドカッ

「よっしゃああ！能力発動！『空を飛べるぐらいの能力！』つて
これ、どこかで聞いたことがある能力に近いんだが…。」

「そうだな、俺もだ。でも、まったく別の能力と考えよう、そうしない^とこの話が危ない。とりあえず、もう一発！」

パシンッ

「痛っ、パーで叩くことはないだろ…。まあいいか、能力発動！『
全ての人に翼をはやす能力！』と言うわけで、翼が生えました。」

「俺等、どんどん人間離れしていつてなくね？」「そうだな。でも、
お前は多分飛べないはずだよな。」

「そつだろうな、これの一つ前の能力能力が『空を飛べるぐらいの
能力』だったから、俺のことは言つてないだろ。」「じゃあ、次は、

どんな能力だろうな。」

「調べるか。行くぞ。」

「パーはやめるよ、皮膚がひりひりするから。」

ゴンッ

「おし、また能力発動！『地面を壊滅させる能力』だつてさ。」

「わかつてる。だから何？」

「まず、お前が落ちます。そして、このまま、俺は、戻ると、お前が土か壁の中に埋もれた状態になります。」

「あ…、俺は死ぬのか、でも、もう少し生きたいから、お前に捕まるぞ。」

「いいけど、その状態で、俺を殴つとかないと死ぬぞ、お前。」

「そうだな、じゃあ、いくぞ。」

ガスッ

「いつて…、とび乗ると同時に殴るなよ。まあとりあえず、能力発動。『この対戦の最初から2、3回繰り返す。』なにこれ、すごいめんどくさい能力発動したんだが。」

「とりあえず、繰り返すぞ。」

「やっと、三回目か…。何分たった？」

「20分ぐらいじゃないか？それにしても、もう少し、優しく殴れよ、結構痛いんだぞ。」

「次は、なんだろうな。同じ能力しか、出てこないから、ちょっとワクワクしてきたぞ。」

「もう、早くやれ、めんどい。」

「じゃあいくぞ。」

ガスッ

「能力発動…、『この戦闘を一番最初のころに戻す能力』やっと、元に戻るつてさ。よかったな。」

「確かに。やっと、この地獄から解放される。」

「確かに、同じことの繰り返しは、しんどかった。」

「もうこれ、辞めよう。精神的にしんどい。」

「そうだな、俺は、肉体的にしんどい。」

「こんなことは、もうこりごりだ……。」

その後、二人は、この闘いを終わらせ、家に帰って行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0362z/>

変な能力。

2011年12月1日14時53分発行